

特集：矢作川上中流域の河畔林

資料

矢作川上中流域におけるオシドリの個体数

Population of Mandarin Duck *Aix galericulata* in the upstream region of the Yahagi River

大畑孝二

Koji OHATA

要 約

- 1) 矢作川の勘八峡より上流域において、年間を通してオシドリの生息調査を行い、最大個体数は2007年2月24日の703羽だった。矢作川上中流域を越冬地として多くの個体が利用していることがわかった。
- 2) オシドリの生息地保全のために、人が近づけない場所で河畔林の樹木が倒れ込んでいる水辺を残す必要がある、餌を食べる場所としてナラ及びカシ林の林を残す必要があるとの提言を行なった。

キーワード：オシドリ、矢作川上流域

はじめに

オシドリ *Aix galericulata* は、世界では日本及び中国東北部、沿海地方、朝鮮半島などに分布が限られている極東の鳥類である。日本では、おもに中部地方以北で繁殖し、冬季は西日本で越冬する個体が多い。本州で繁殖する個体は、留鳥であると言われている。中国東北部、沿海地方では夏鳥で冬季は朝鮮半島や日本に渡来すると考えられている。イギリスなどヨーロッパの一部でも放鳥したものが帰化鳥として繁殖している。

冬季つがいを作り、メスのみが抱卵・育雛を行う。森林の水辺の地上4~10mくらいの樹洞を利用して繁殖する。巣箱を利用することもある。産卵期は4月下旬から7月ころまでである。1巣に7~12個の卵を産み、抱卵期間は28~30日くらいである。孵化した雛は、活発でまもなく地上に飛び降りて水辺に向かって走り、河川などにたどり着く。

植物質を主として採食し、コナラ類、カシ類、シイ類の仲間の堅果を好んで食べる。また、イネ科やタデ科の種子なども食す。動物質では、水生昆虫のゲンゴロウの仲間やトビケラの仲間、小魚なども食す(清棲, 1978)。

愛知県西三河地方では、主に冬鳥として林に囲まれた池沼や河川中流域などに渡来するが局地的である。調査報告としては、岡崎市での朝夕の飛び出し行動(小嶋, 1998)や個体数の変動(小嶋, 2002)があるが、豊田市では調査の報告がなされていない。

オシドリは、環境省のレッドリストの情報不足にランク

されている。また、豊田市の配慮種(深見, 2005)に指定されており、その生息情報の把握が重要となっている。

なお本報告は、矢作川河畔林等の植生・昆虫・水生生物等についての現況把握や、河川愛護・保全活動状況を把握し、景観に配慮した河畔林等の保全及び河川の環境改善に寄与することを目的として矢作川研究所が実施した鳥類調査の一環として行ったものである。

調査方法

勘八峡(河口より約45km)より矢作第2ダム(河口より約76km)までの矢作川本川上中流域を車で移動し、2~3km毎及び過去の調査での観察地点に停車し、10倍の双眼鏡と20倍の望遠鏡を使いオシドリの個体数を数えた。調査期間は、2006年11月から2007年10月までで、頻度は月の上旬、下旬の2回とした。

主な調査場所は、下流側から勘八峡、両枝橋上流、広瀬やな上流、下日沢橋、川口やな、有平橋、矢作第2ダムとした。

結 果

表1及び図2に示したとおり、調査初日の11月9日の103羽をスタートに1月25日の541羽と冬期に向かって個体数が増え、2月24日に最高羽数の703羽を数えた。3月に入ると急激に個体数を減らし、4月下旬には一桁台の確認数で、6月下旬からはほとんど確認できなかったが、夏季の8月から9月に1羽ずつ見られ越冬した個体もいたようである。年により飛来する個体数は変

表1 矢作川上中流域の調査日ごとのオシドリ個体数.

調査日	勘八峡	両枝橋上流	広瀬ヤナ上流	下日沢橋	川口ヤナ	有平橋	矢作第2ダム	合計(羽)
2006/11/9	12	20	51	14	6	0	0	103
2006/11/21	2	40	57	10	4	35	0	148
2006/12/16	25	12	19	180	62	0	0	298
2006/12/25	3	60	39	3	20	0	0	125
2007/1/5	120	0	29	54	30	0	0	233
2007/1/25	462	7	22	35	15	0	0	541
2007/2/12	40	130	6	8	13	0	0	197
2007/2/24	25	554	51	69	4	0	0	703
2007/3/12	18	15	0	9	14	0	0	56
2007/3/23	0	20	23	2	13	0	0	58
2007/4/12	0	0	43	0	3	0	0	46
2007/4/20	0	0	7	0	0	0	0	7
2007/5/7	0	1	3	0	0	0	0	4
2007/5/21	0	0	1	0	0	0	0	1
2007/6/4	0	0	1	0	0	0	0	1
2007/6/26	0	0	0	0	0	0	0	0
2007/7/9	0	0	0	0	0	0	0	0
2007/7/18	0	0	0	0	0	0	0	0
2007/8/13	1	0	0	0	0	0	0	1
2007/8/22	0	0	1	0	0	0	0	1
2007/9/1	0	1	0	0	0	0	0	1
2007/9/19	0	0	0	0	0	0	0	0
2007/10/1	0	0	0	0	0	0	0	0
2007/10/18	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	708	860	353	384	184	35	0	2524

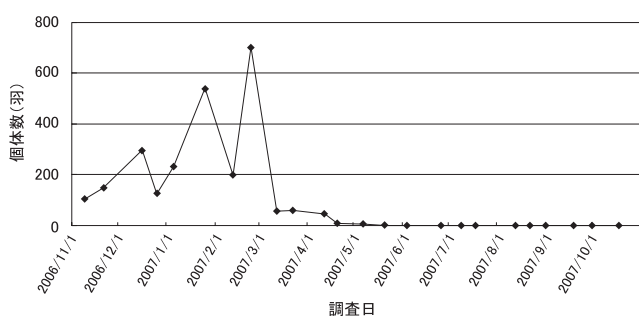


図1 矢作川上中流域のオシドリの個体数の季節変化.

動するが、矢作川には越冬のために数百羽のオシドリが毎年飛来しているものと思われる。

考 察

予想されていたとおり、矢作川上中流域においても冬鳥として生息していることが確認された。

繁殖に関しては、東三河山間部では繁殖期である夏季も少数が観察され、設楽町では繁殖の記録（愛知県野鳥保護連絡協議会，1995）がある。また西三河地域では、豊田市中金町、豊田市足助町、豊田市坂上町、岡崎市小丸町で繁殖の記録（小嶋，2003）がある。また、豊田市坂上町では、2006年、2007年（雛7羽）にも繁殖の記録（杉山賢太，私信）があり、繁殖についてはより詳細な調査が必要である。

勘八峡から西広瀬を中心に川口やなあたりまでの河畔林と川岸で日中は休息をしている。夜間は、ドンダリのある河畔林などで採食をしていると推測される。

オシドリは大変警戒心が強いので、勘八峡でボートの

練習があるとおどろいてほとんどが飛び立ってしまう。安全な場所を確保する意味で、人が近づけない場所で河畔林の樹木が倒れ込んでいる水辺を残す必要がある。餌を食べる場所としては、ナラ、カシ林の林を残す必要がある。矢作川上流域では、繁殖している可能性もあり樹洞のある大木を残す必要がある。

謝 辞

オシドリの営巣状況について杉山賢太氏より情報をいただいた。感謝申し上げる。

引用文献

愛知県野鳥保護連絡協議会（1995）愛知の野鳥。愛知県環境部自然環境課。愛知県。
 深見弘（2005）資料編 XI 鳥類。豊田市自然環境基礎調査報告書，：415。
 清棲幸保（1978）オシドリ。増補改訂版日本鳥類大図鑑II。講談社。東京。
 小嶋良武（1998）岡崎市乙川におけるオシドリの朝夕の飛び行動と日の出・日没時間との関係。西三河野鳥の会研究年報，1：7-10。
 小嶋良武（2002）丸山新池におけるオシドリの個体数の変動。西三河野鳥の会研究年報，5：1-4。
 小嶋良武（2003）西三河におけるオシドリの繁殖記録。オシドリニュース，14：2。

〔 1) 豊田市自然観察の森
〒 471-0005 愛知県豊田市京ヶ峰 2-2 〕